

2021年度フラット35利用者調査

I 調査の概要

フラット35(買取型)又はフラット35(保証型)を利用された方の属性、住宅の概要等に関して、2021年4月から2022年3月までに機構が買取り又は保険付保の承認を行った案件(借換えに係るものを除きます。)のうち65,877件(2020年度:78,560件)について集計しています。

本調査は、フラット35(買取型)が創設された2003年10月の翌年度である2004年度から開始しています。

II 調査結果の主なポイント

※<>は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 中古住宅の割合が調査開始以来最高に <p.3>

フラット35利用者の取得住宅の内訳について、中古戸建と中古マンションを合計した中古住宅の割合が2004年度の調査開始以来最も多くなった(24.7%)。

2 50歳以上の割合が調査開始以来最高に <p.4、p.5>

フラット35利用者の年齢について、50歳以上の割合が2004年度の調査開始以来最も多くなり、初めて2割を超えた(23.1%)。

3 中古住宅の平均築後年数が長期化 <p.20、p.21>

中古住宅の平均築後年数は長期化しており、戸建、マンションともに築後年数の長い住宅の割合が増加している(中古戸建20.1年、中古マンション25.3年)。

本調査に関するお問い合わせ

住宅金融支援機構 国際・調査部 調査グループ TEL 03-5800-8074

本調査の詳細資料は、住宅金融支援機構ホームページ

(https://www.jhf.go.jp/about/research/loan_flat35.html) に掲載